



エイリアン魔獣境 (2  
巻)  
菊地秀行  
朝日ソノラマ (文庫)  
(11/30, 12/30刊・各  
¥410)

天才ピアニストの「手首」が盗まれる。不思議な力を秘めた手首であるという。その秘密を狙って、さまざまな勢力が暗躍をはじめた。トレジャーハンター八頭は、アマゾン流域深く、その手首を盗み出したインディオを追って侵入する。インディオは、また恐ろしい超能力の持ち主だった。たった二人で、米軍特殊部隊を殲滅してしまったのだ——。やがて、一行は、アマゾンの霧を超えて、異次元の世界、恐竜の跋扈する、失われた世界へと足を踏み入れる……。

菊地秀行は、もうソノラマ人気作家の一人といえるだろう。今回も快調なペースで物語は進む。米軍女士官のペロニカ、美男のブラジル軍将校シュミット、失われた国の女王などなど、登場人物も多彩で楽しい。ソンピ、生物兵器研究所、手首の地球の運命にかかわる真相と、道具立ても豊富だ。ただ、あえて言うなら、小道具をバラまきすぎた分、全体の印象が散漫になっていく。長篇書下ろしが、文庫でいくらでも読めるのは、ソノラマ、コバルトぐらいだけれど、登場人物や小道具の多さが、かならずしも物語の面白さに結びついていないようだ。その点再考を。(俊)